



くぎづけの

矩形の箱でわらじ履き

北枕 鼾とりもつ木魚哉

擦こすれば蛹まごくの字に回まわ転し

子ボ子ーの思フ念ラなき世を浮うき沈しみ

機キ織リ虫キすそは織リらじと鳴キきしスきる

墓ヒ ひとり宴キのもみじ莫ガ座エ

※前ページ矩形の箱は柩。くきつけとは国の姿形。

人面の毒蛾矢鱈としがみつぎ

温暖化 きんぎよ帯解く白い腹

袈裟ひとえオケラ蝮経読む日照哉

啓蟄や よろいかぶとの虫かなし

酔狂な苦界の草紙 風めくる

鎖鎌にぎりし蛇虺※たきはとぐる巻き

欲ふかき肺魚疑似餌にかぶりつき

継ぎはぎの袈裟一重を衣魚かじり

笹緑 水子ひとりが櫓をこぐや

終齡の蟬蛻※せんせいなきや 裸虫

※蛇虺 人に害をなす蛇、まむしの類。

※蟬蛻 世俗、迷いを脱け出る。解脱。

風に揺れくびれ瓢箪 芸のうち

常闇にひとり奏でる 蠻虫

船虫の月夜の晩の出船哉

逃げ水に脚を奪られて遍路旅

裾冷えの十三階段のぼりつめ

欲海の生唾くだす 喉ぼとけ

平成の釣瓶こぼるる 苦い水

甲状腺 血ぬれしメスをかくし置き

まやかしのモンジュ鬼胎を抱えこむ

地獄譚 ほのおの緑身をとかし

途中下車　お召列車は首をふり

格子なき座敷牢あり　菊の紋

枯れ枝に速贅※はやにえおどる　秋の空

身を折りて己を立てる屏風哉

玉鋼たまはがね　拔身たまはがねわたるや独楽の脚

※速贅＝百舌(もず)のはやにえ。

皇軍の亡者ひつぎに胡坐あぐらかき

サレコーベ鬼哭啾啾※1 笛を吹く

反基地の阿修羅となりし姥はははあり

血の遺産 鎌首もたげ蝮局とくろ巻く

とんでれらおちてれらしてオスプレイ※2

※1. 風葬の崖に隠した兵士の頭蓋骨。風がこめかみの穴を吹き抜けるととき
不条理の笛となる。沖繩の作家目取真俊の見る沖繩戦でのある光景。

※2. むかしなつかしい金鳥蚊取線香のコマーシャルを拝借しての戯れ句。

にぎりしめ逆さすぼみの核の傘

恐竜とともににはためく弔旗かな

不可逆の少女の像は歩を数え

羞じらいのこめかみ噛むや苦い水

張りぼての権力つつむ 欲の皮

掃溜の組閣人事にウジがわき

夜郎自大 元の鞆へは収めかね

ペテン師に無いものねだる紙の票

九条に迷彩服を着せたがる

憲法の積木くずしに血道上げ

マイナンバーお一人様の収容所

ファシズム 格差社会の蠅がわき

ひび割れた器に弾ぜよテロリスト

蛆の虫 極楽浄土か黄金風呂

金満の避暑地いずこやパラダイス

ネイル先 止まりし蠅はすべり落ち

化粧剥げ 「日本会議」の刺青浮く

風袋[※]の衣剥がれし 裸虫

ひがらめに希望と言う名の選別機

化けの皮 善くぞタヌキは生まれけん

※風袋＝秤でモノを量るときに容器や上包。

付度の一衣帯水[※] 絞りかね

モリカケの暖簾かくして非を銜^てい

けものみち猪突猛進 獣医学

政官のマダニとなりて 吸血鬼

我が罪科ジョンウン様に当てこすり

※一衣帯水Ⅱひとすじの帯のような狭い川や流れなど。

のつけから圧力釜を空に焚き

列強の口車に武器が載る

トランプの丸めた指を風が抜け

トランプの似顔絵一つ 瓜二つ

死の商人ロケットマンを多とするや

壺一つ 指いっぽんの敗戦忌

あるじ無き風鈴やけに風をよび

ヤスクニの寄場かなしき座頭虫^{*}

文明国 裏は地獄の表門

不条理の非ずのトビラ空を翔び

※座頭虫はクモに似て、歩く姿は杖をつく傷病兵。

二〇一七年十月、大型颱風二十一号が日本列島を直撃。折も折、いわれなき解散とやらで、莫大な税を私物化しての、まこと奇天烈な選挙がとりおこなわれた。本来、とくと辞任に値すべくモリ、カケ問題を通被りしての遁走。常套手段の、しかじか。逃げの一手は『国難』?!だつて、笑わせちゃあいけない。天命のごと国民をコケにした百パーセントトランプの旗振り役、安倍晋三おまえこそが国難。

加えてアウフヘーベンなどと『希望の党』を立ち上げての、女ペテン師の登場。皇国の極右集団『日本会議』にも籍を置く、野望と権力志向の似た者同士。革進なりの題目『脱原発』などをかすめ取り、仕分け、排除のホンネが仇となり、知事の座との咲き分け花も凋みて、皮肉と言うも哀れ。自民の票を嵩上げしての、名実ともに補完勢力とはなり果てる。

ことはついで——

同じ穴のムジナ退治もせにやならぬ♪やっかいな、颱風の置きみやげ。

歳を越す蠅の耳にも、除夜の鐘

二〇一八年一月